

令和3年度第2回安城市総合計画審議会 議事（要旨）

日 時	令和3年11月19日（金） 午後2時～午後3時40分	
場 所	市役所大会議室	
出席者	委 員	加藤研一会長、太田千尋副会長 佐野真紀委員、安田孝美委員、久恒美香委員、安藤正康委員、 岩月豊委員、笠原昇悟委員、加藤宣子委員、河田光司委員、 酒井麻利子委員、戸田こず恵委員、富田清治委員、渡邊裕子 委員、近藤裕己委員、山本道生委員
	事務局	市長、副市長、教育長、企画部長、行革・政策監、 関係部次長、健幸=SDGs課長、健幸=SDGs課長補佐、 健幸=SDGs課職員
次 第	1 市民憲章唱和 2 辞令交付 3 市長あいさつ 4 会長・副会長の選出 5 会長あいさつ 6 議題 (1) 第8次安城市総合計画 実施計画（令和4～6年度）（案）につ いて 7 報告事項 (1) 市制施行70周年記念事業について (2) 市民アンケート調査の結果について 8 その他	

1 市民憲章の唱和

2 辞令交付

【代表受領：佐野真紀委員】

3 市長あいさつ

皆さん、こんにちは。本日は、ご多用の中、令和3年度第2回総合計画審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど、辞令を交付いたしました。委員の皆さんにおかれましては、2年間の任期において、本市行財政運営の最上位計画である総合計画についての審議をよろしくお願い申し上げます。

さて、本日の審議会では、令和4年度から令和6年度までの3ヶ年の実施計画についての

ご審議をいただきます。総合計画審議会で実施計画を審議すると言われても、それぞれの違いが分からないという方もおいでかと思しますので、分かりやすく説明いたします。

「総合計画」が、目指す都市像「幸せつながる健幸都市 安城」の実現に向けた平成28年度からの8ヶ年の長期計画であるのに対して、「実施計画」は来年度以降の具体的な3年間の中期計画という位置づけになっています。

よって、8ヶ年の長期計画「総合計画」が基本ではありますが、社会情勢は刻々と変化をしております。そこで総合計画に沿いつつも、時代の変化に対応すべく3ヶ年中期計画の「実施計画」も立て、それを毎年見直しして全体調整を図っていくものです。総合計画で市政の将来像を示し、実施計画で具体的な推進を図っていく、と理解いただければよいかと思っております。

来年度以降の新たな実施計画に関しましては、後ほど担当者より説明いたしますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

また、審議後の報告事項として2つを挙げさせていただきます。

まず、市制施行70周年記念事業についてです。来る令和4年度が安城市市制施行70周年となりますので、それにちなんだ様々なイベント等の記念事業を計画しております。ただ、新型コロナウイルス感染再拡大の可能性がありますので、従来どおりのにぎやかな集客イベントの開催は控えめとし、eスポーツといったデジタル技術の活用など、これまでになかった新たな試みに挑戦する契機としてまいります。多くの市民にデジタル技術に親しんでいただき、そのノウハウはその後の日常業務への応用を考えてまいります。

また本市は現在、第8次安城市総合計画において「健幸都市」を目指していますが、近年は国連が提唱するSDGsの実現にも力を入れています。この2つの目標を掲げることにについては、市民の皆さんの混乱を招く可能性があると考え、私たちが目指す健やか幸せなケンサチのまちも、SDGsが目指す持続可能な社会も、その到達地点は同じと結論づけて「ケンサチはSDGs」のスローガンを掲げています。

そして、持続可能な社会を次世代に引き継ぐための試みとして、70周年記念事業を「脱プラスチック」啓発の機会と捉え、記念事業を通じて脱プラスチックを推進してまいりたいとも考えています。とは言いつつも、本日皆さんのお手元にはペットボトルのお茶をお出ししていますが、基本的には今後は脱プラを目指すものの、やむを得ない場合はその理由を明確にしてプラ製品を使い、利用後はリサイクルに回すことを心がけていくということでご理解願います。

さらに、もう一つの報告事項である市民アンケート調査ですが、これは実施計画に基づく各施策に対する市民の満足度、重要度等を調べ、目指す都市像「幸せつながる健幸都市 安城」の実現に向けたまちづくりの進捗状況を測るとともに、当市の課題を洗い出し、今後の取組みに生かすための調査です。

同様の調査は令和元年度にも行っておりますが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大後の市民の意識調査であり、この結果を検証するとともに、今後の施策に反映させ、「ケンサチはS

D G s」が目指す持続可能なまちづくりをより推進してまいります。

以上、私からの冒頭あいさつとさせていただきます。本日のご出席、誠にありがとうございました。

4 会長・副会長の選出（事務局説明）

【久恒美香委員】

町内会長連絡協議会の会長をされております加藤研一委員を推薦いたします。

加藤委員は、現在、町内会長連絡協議会の会長として、また町内会長として、安城市の市民の生活に、幅広い知識と経験をお持ちでございますので、適任であると思います。

【異議なしの意見あり】

【加藤研一会長】

副会長には太田委員を指名します。よろしくお願いいたします。

5 会長あいさつ

ただいま安城市総合計画審議会会長に選出していただきまして、ありがとうございます。安城市総合計画審議会の会長もこれで3年目になります。

私は安城市市民協働推進会議の会長も務めております。安城市市民協働推進計画は第8次安城市総合計画を進めるための個別計画の位置づけになります。まだ経験の浅い私が両方の会長を務めさせていただくということで、大変身の引き締まる思いであります。

委員の皆様方、担当事務局の皆様方にも温かいご支援、ご理解を得まして無事にこの会が進められることを願っております。会長就任のあいさつとさせていただきます。

6 議題

(1) 第8次安城市総合計画 実施計画（令和4～6年度）（案）について

【加藤研一会長】

それでは、早速議事に移りたいと思います。本日は議題が一つでございます。議題(1) 第8次安城市総合計画 実施計画（令和4～6年度）（案）について、事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

【加藤研一会長】

ただいま事務局から議題（1）第8次安城市総合計画 実施計画（令和4～6年度）（案）について説明がありました。皆様の広い視野、高い政策的見地からご意見をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

【近藤裕己委員】

質問してもよろしいでしょうか。一通り資料を読ませていただきまして、一番気になったところが一つあって、先ほど説明があった病児・病後児保育支援事業。とてもいい事業だなと思っていて、実際私も介護系の仕事をさせていただいてよくわかるんですけれども、一番困るのが急に熱が出たので休まなければならない。介護の場合だと必ず他の方がカバーしなきゃいけないですが、制度的に現状一番問題なのが前日に受付をしなければならない仕組みになっていて、実際は当日熱が出て休まなければならないというケースが圧倒的に多いので、そういった部分を見直していただけるとすごく助かる事業かなと思いますので、そこをつめていただきたいなと思いました。

【子育て健康部長】

今回の計画の中で、補助金を交付することを考えています。実際のところ、医療従事者の方がこの保育所、病児保育をやっていただけるということで、そこが当日の診察をして、そのまま入所できるというシステムですので、今ご意見いただいたことには十分対応できると思っております。こういうところが、安城市内に複数できてくるとますます子育て中の保護者の方にとっては、利用しやすく、子どもを安心して預けられる、自分も安心して仕事ができる環境ができると思っておりますので、今後徐々に進めていきたいと考えております。

【加藤研一会長】

他の方、よろしいですか。

【安藤正康委員】

先ほど説明いただいて分かりやすかったのですが、事前にいただいた資料だとそこまで詳しいことが分からないんですね。できたら詳しく知りたいなと思ったので、全ての項目についてそういうものができるか分からないのですが、今説明いただいた資料を後でもいただけると助かります。

【健幸=SDGs 課長】

今後になりますが、委員の皆様には説明資料を送付させていただきますので、よろしくお願いたします。

【加藤研一会長】

説明資料は全部の項目に作っているわけではないですね。

【健幸=SDGs 課長】

はい。実施計画の事業数はかなり多くございますので、全ての項目について資料を作成するというのは時間の都合もございまして、難しい状況でございます。委員の皆様により分かりやすくご理解をいただくために、いくつか抜粋をして作りこんだ資料でございますので、できるだけ事前の配布ということを心掛けて対応してまいりたいと考えております。よろしくお願いたします。

【加藤研一会長】

実施計画の項目はたくさんありまして、今事務局の方から説明のあった項目について

は市としても特に重点的という項目であると思いますので、ここにあるものについては、事前に配布ができるように検討してほしいと思います。

他の方、いかがですか。

【久恒美香委員】

病児・病後児保育のことなんですけれど、拠点がいくつか増えることはとてもいいことだと思います。利用者が実際1回利用するのには、いくらかかるということは分かっていますか。

【子育て健康部長】

今実際に行っている桜井の病児保育室は1人2,500円という金額でやってみえるそうです。参考までに安城市が委託している「ぐんぐん」は1人2,000円ということです。今後、この計画にあるように病児保育をやっていただける診療所の方にも、人数によって補助していきたいと考えております。

【加藤研一会長】

はい、河田委員お願いします。

【河田光司委員】

特殊詐欺防止装置の設置について、大変よい取り組みだと思って説明を伺っていましたが、我々金融機関は啓蒙活動だとか、チラシを配ったりとか、かなり労力を使っていますが、なかなか止まりません。我々の金融機関だけでも、ほぼ一月に2、3回はこういった事例がありまして、安城市内の金融機関全部を合わせれば、ほぼ毎週何件か発生していると思います。

質問なんですけど、今どのくらいの方がカバーできているのか。それからどこをゴールに目指すのか。いわゆる普及率ですか。こういった装置があることが非常に有効だということは私も分かるんですけど、どのあたりを目指しているのかをお答えいただければありがたいです。

【市民生活部長】

普及率をどこまで目指しているのかという目標はございません。現状、今詐欺装置が備えられたご家庭がどれくらいあるかという数字も持ってございません。今年10月末現在で特殊詐欺が24件、警察が認知という件数が24件でございます。昨年同時期が4件ございましたので、6倍に増加している状況でございます。

これを減らしていくということが目標でございます。

【加藤研一会長】

事前質問の内容については、事務局の方からざっと説明することはありますか。

【健幸=SDGs課長】

委員の皆様から事前に質問をいただいていたものにつきましては、先ほど配布資料の説明で申し上げましたとおり、皆様の机の上に配布をさせていただいております。また今から、その他等々ご説明を差し上げますが、こちらの中でさらにご質問があるという場

合は、本日ご質問をいただければと考えておりますが、事前質問につきましてはこの資料をもって皆様に情報を共有させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【加藤研一会長】

はい、お願いします。

【酒井麻利子委員】

I C T推進事業についての質問です。行政事務の効率的な推進デジタル化というのはいいことだと思うんですけども、このデジタルになることによって市民サービスの向上という部分で、どうしても若い人はともかく置いていかれてしまうような人がいらっしゃるのではないかなと思っていまして、いろんなところでデジタル化が進んでいますということで弊社の番組でもお伝えはしていくんですけども、どうしても分かりにくかったりする部分があるので、デジタルになって置いて行かれないような工夫というのは何か考えていらっしゃいますでしょうか。

【行革・政策監】

D X推進計画に基づきまして、安城市は市民サービスの向上と業務効率を高めるという両面からデジタル技術の導入を進めております。その計画の中では、いわゆる情報格差、デジタルデバイドといったことも言われますが、デジタル技術であったり、パソコン、スマホを普段使われない方はいらっしゃいますので、そういった市民の方にデジタル技術が行き渡るということは相当時間がかかると思いますし、なかなかそういう機械を使わない方もいらっしゃると思います。

今、市では例えば公民館であったり福祉センターにおきまして、スマホの活用に関する講座などを地道に行っていたり、昨今ですと携帯ショップにて総務省の委託事業の中でスマホだとかオンライン申請等々について丁寧に教えてくださるようなサービスをやっていると思いますので、そうしたものの普及啓発にも取り組んでおります。また、今年度から愛知県におきまして高齢者デジタルサポーター事業を立ち上げまして、高齢者の方が先生となってスマホの使い方とか、ネットの使い方を教える事業も始めていますので、安城市から先生となるような高齢者の方を愛知県に推薦して、先月までに研修を終えたと聞いておりますので、そうした高齢者の方が他の高齢者の方に対して教えていくような講座の展開なども市として支援をしていきたいと思っております。

時間もかかりますが、地道に情報格差の是正について取組みを進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【加藤研一会長】

先日来、ワクチンパスポートの問題でスマホがない方はダメだという当初は話でしたが、最終的には接種済証明書の写真、コピーといったことも出てきた。基本は高い目標でいいと思うんですけども、いざやるときには緩和措置を一緒にやっていただくこともデジタルというものに遅れてしまう高齢者のためには有効な策かなと思います。

す。それでは、学識経験者の安田委員からご意見を申し上げます。

【安田孝美委員】

それではご指名いただきましたので、僭越ながらコメントをさせていただきたいと思っております。この計画、市役所の各セクションの方々が十分にお考えいただいて、各事業についてもよく考えられた事業かなと思っております。

まず、細かい話ではありますが、この計画書の2ページに基本計画、そしてSDGs、3つの大きなプロジェクトの図がございますけれども、できればもう少し各事業がどういう位置づけになっているか一覧にできるような仕組みがあればいいなと感じました。また、歯車の図が「ひとづくり」と「しごとづくり」で止まっていますが、本来はぐるぐる回することを意図していらっしゃると思いますので、こちらも修正いただければと思います。また、3ページの棒グラフと折れ線グラフがございますけれども、令和3年度までと令和4年度以降で色を変えた方がいいんじゃないかと感じました。

次に全体的な話を申し上げますと、5分野について色別で表現されて、さらにそれぞれSDGsの項目が書かれているということで、非常に分かりやすく大変いいデザインになっていると感じまして、大変よろしいかなと思います。それから今日ご説明いただいたスライド、先ほど委員の方からのご指摘を伺いましたけれども、やはり一覧で見せられても分かりにくいというところがあるので、紙面上はこうなのかもしれないんですけども、ぜひデジタルの時代でございますので、ウェブ上で今日見せていただいたようなスライドが見れるような市民向けの広報の在り方をお考えいただいて、QRコードでもいいと思うんですが、ウェブとの連携をぜひこの計画の中でお考えいただけるとよろしいかなと思います。

加えて、市民の中でも若者向けと言いますか、これからどの自治体も同じかと思いますが、安城市がどう動こうとしているかということをや若い世代に浸透させていくような仕掛けをお考えいただきたいかなと思います。おそらくウェブ等を使うことになるかと思いますが、ソーシャルメディアになるのか分からないですが、全体像としてはこのような表形式で表現することが重要ですが、若者向けに刺さるような仕掛けづくりというものをぜひお考えいただければと思います。

最後に、ICTの活用のところでご指摘いただいたデジタルデバイドの問題。これは非常に重要な問題だと思っております。市からご回答いただいた内容で大変よろしいかと思うんですけども、デジタル庁のデジタルの日イベントが全国で行われましたが、我々も名古屋市内のある区でデジタル相談会というものをやりました。どういうものかという、スマホの使い方とかの講習会ではなくて、日々スマホを含めているんなデジタルのことでお困りごとはありませんか広く呼びかけましたところ、たくさんの方がいらっしゃるって、いわゆる高齢者ではない方もいらっしゃるってパソコンの使い方に始まって、スマホのアプリの使い方とかいろんなことをお尋ねになりました。我々研究室の学生が主体となってボランティアで対応させていただいたんですが、これは非常にいいね

ということで、今後も継続的にやりたいということで話が進んでおりまして、他の自治体からもそういうことをやってほしいというお話があって、今度は別の自治体の図書館で相談会を実施することを考えております。ぜひこれを予算化いただいて、ボランティアでは限界がありますので、安城市として市民向けに「なんでもいいからデジタル相談会やりますからどうぞ」ということを定期的に安城市の図書館などで行われると、デジタルデバイドの問題もだんだんとなくなっていくのかなと思っていますので、ぜひお考えいただければと思います。以上でございます。

【加藤研一会長】

ありがとうございました。続いて、佐野委員いかがでしょうか。

【佐野真紀委員】

ありがとうございます。今日この会に初めて参加させていただきまして、いろいろご説明をいただきました。ありがとうございました。前に表示していただいているスライドが分かりやすく、初めて見てもよく分かる形で説明がされていて大変ありがたいなと思いました。

私から感想ということで申し上げたいと思います。今日2点質問がありました病児・病後児保育の支援事業のこと、大変手厚いという印象を受けました。他のところも見てますと、やはり子育てしながら勤務されている方が非常に苦勞をされていて、病児・病後児保育の病児の方をやろうとすると別の自治体を探さなければいけなかったりとか、非常に苦勞されていることがあります。市内で複数の医療機関で今後実施されるということですので、これは非常にありがたい仕組みではないかなと思います。やはりこういうものがありますと、若い世代が安城市に住みたいという風に思うんではないかと思いました。

それから、放課後児童クラブについても5、6年生の受け入れを進めようとしていくということで、これも他市に比べて進んでいるところだなという風に思いました。安城でこういうことを率先してやっていただけると他の地域にも波及していくのかなと思いますので、ぜひ頑張ってくださいたいなと思いました。

それから先ほどICTのところでも質問がありました、高齢者に向けてデジタルになって置いていかれない工夫について、こういったことの中にぜひ障害者の方も入れて配慮をいただきたいなと思います。私たちが差別しようと思っていなくても、そう思うしてしまうということが時々ありまして、私どもの大学の中でもウェブメールの仕組みがあってみんながそれを普通に使っていましたが、視覚障害の先生が赴任されまして初めて「私は使えません」と絵をクリックして使うシステムなので、そもそも絵が見えないとシステムに入れない。そこで、そうだったんだと分かって別の仕組みを作りました。全く気が付かなくてそうなるということもありますので、ぜひそういった多くの方の意見を聞きながら進めていただけたらと思います。

【加藤研一会長】

ありがとうございました。この後、報告事項もございますので、質疑を終えたいと思います。皆様から様々なご意見が出てまいりましたので、事務局はこの意見についてしっかり検討していただきたいと思います。令和4年度～6年度までの実施計画については原案どおり了承することに意義はございませんか。

【異議なしの意見あり】

【加藤研一会長】

ありがとうございました。それでは、議題（1）第8次安城市総合計画 実施計画（令和4～6年度）（案）について、はこれで終了いたします。

7 報告事項

（1）市制施行70周年記念事業について

【加藤研一会長】

続きまして、報告事項（1）市制施行70周年記念事業について、を事務局より説明をお願いします。

（事務局説明）

【加藤研一会長】

ただいま、事務局から報告事項（1）市制施行70周年記念事業について説明がありましたが、ご意見・ご質問はございませんか。

【安藤正康委員】

2点意見を述べたいと思います。

障害者の方の啓発動画の作成のところで、特に私が最近思うのは表面に表れない障害をお持ちの方、そういう人たちについて、本人は差別しているつもりはないんですけど、そういうことが表れる場合があるということと、それに心の病がある人たち、この人たちについての差別というものがあって、よくあるのがマスコミが精神障害者を非常にセンセーショナルに扱うようなときがあるので、それが全体的に誤解を生んで、実際には犯罪率は低いんですけど、そういう人たちを近所が差別するというようなことも起こりますので、そういうことも踏まえた映像を検討していただきたいなと思います。

それから細かいことですが、今説明にはなかったんですけども、8ページの56番の周年記念ワッペン制作っていうものがありますけれども、ぜひプラスチックを使わない方法でワッペンを作成するようにお願いします。

【福祉部長】

心のバリアフリー啓発事業ということで動画を作成するというところでございますが、まず、障害を正しく理解していただくということが大前提になりますので、動画を作成するうえで、例えば作成する人を選ぶ段階、あるいは作成する段階で当事者の意見を取

り入れていくという視点を持っていきたいと思っております。70周年ということがきっかけになるんですけども、将来的にも継続して使っていきたいと思っておりますので、将来的にも使えるようなものを意識して作っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【健幸=SDGs課長】

ワッペンについては、プラスチックの部分を可能な限り環境にやさしい製品に置き換えまして、作成を心掛けてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【加藤研一会長】

実は事前質問の中でプレミアム商品券を中小の個店で消費されたものが56%、量販店が44%となっております。私としては以外に中小個店が多いなと感じたんですけど、担当部署ではどのように受け取ってみえますか。

【産業環境部長】

おっしゃるとおり共通券は大きな店でも使えるんですけども、地元応援券は中小しか使えない。中小を支援するためには、この共通券も地元に使っていただきたいと思っておりますので、ぜひもっと中小の個店で使用されるパーセンテージが増えていただくとありがたいと考えております。

【加藤研一会長】

せっかくの政策でございますので、地元が活発になるようなことを引き続きお願いしたいと思います。

では、他に意見もないようですので、これで報告事項（1）市制施行70周年記念事業について、を終了いたします。

（2）市民アンケート調査の結果について

【加藤研一会長】

続きまして、報告事項（2）市民アンケート調査の結果について、事務局よりお願いします。

（事務局説明）

【加藤研一会長】

ただいま事務局から、報告事項（2）市民アンケート調査の結果について、説明がございました。ご意見・質問等はございますか。

【戸田こず恵委員】

市民アンケート7ページの、事前質問でも書かせていただいたんですが、Aゾーンを重点目標でやっていくということでご案内いただいたんですけども、私が一市民として見たときに何が問題かというところ、もちろんみんなが大事だと思っていて、でも不満が多いことはもちろんやっていかなければならないことなんですが、満足度が低いにも関

ならず、住民のみんなが重要度が低いと思っている項目が闇が深いというか、そこそ気にしていかないといけないところかなと感じまして事前質問させていただきました。

地域自治（コミュニティ）が気になったんですけれども、今回コロナの関係でなかなか皆さんコミュニケーションが取れないという中で、町内会関係で仕事しておりますので、町内会がいくつかそろって安城市になっていると思うので、町内会に対して変えていかないといけないところがあると思うんですが、総合計画の中でちょっと手薄になっているのかなと感じていましたので、このBゾーンにあるところを今後どのようにしていくのか、重点にしてくださいとは思いますが、Aゾーンよりはかなり薄くなっているのか、なかなか手付かずになってしまうのかなと思うんですけど、観光や工業などいろいろ含めてBゾーンには結構大事なことが含まれていると思いましたので、Bゾーンに対する扱いが今後どうなるのかをお聞きしたくて質問させていただきます。

【市民生活部長】

地域自治（コミュニティ）、もっと低い参加と協働の所管部長でございますけれども、地域自治（コミュニティ）の重要度が低いということは私としても残念であるとともに、より一層市民の皆様に啓発などを行っていかねばならないと考えております。町内会活動については、事前質問の回答にも記載させていただきましたとおり、ここ数年くらい毎年5月には防犯パトロール、防災、建物・ごみステーションの管理といった町内会活動を紹介して重要性を訴えかけております。また、昨年度は宅建協会と協定を結びまして賃貸住宅を貸す窓口で町内会加入のチラシを配布いただく、また市民課の窓口でもチラシを配布させていただいているところでございます。

実施計画には出てこなかったんですけれども、毎年総額で全ての町内会を合わせて1億円くらいの活動の補助をさせていただいております。また、各地区の公民館の建設補助等もさせていただいております。重要性については、PR、周知に努めていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

【健幸=SDGs課長】

ご質問にございましたBゾーンにどのように取り組んでいくかということですが、本日お配りしましたこの市民アンケート報告書の57ページにも記載をしておりますとおり、Bゾーンにつきましては施策の必要性の認識が低く、取り組みに対する満足度も低いと考えられます。このため施策の重要性に対する理解を高めるとともに、取り組みの見直しや方向性などを十分検討し、満足度を上げていく必要があると私どもも認識しております。なので、このような形につながる施策を今後も考案してまいります。

もう一つ、実は今回の調査結果で判明したことがございますので、報告させていただきます。こちらに記載されております項目の全て、実は前回の調査に比べて満足度や重要度というもの全てが全ての項目で、差はありますが高まっております。つまり、すべての満足度が少しずつ高まってきているとご理解をいただきたいと思っております。その結果、満足度や重要度の平均点が上がっておりまして、Bゾーンの面積も増えているという状況

が起こっております。今後もそのような形で施策を含めながら、さらに満足度、重要度を高めていくように努力してまいりますので、よろしくご理解くださるようお願いいたします。

【加藤研一会長】

町内会長の私から一言申し上げたいと思います。

私は常々町内会を預かる者として、町内会は行政とのパイプ役として他の地域コミュニティとは別格の存在だと、そういう自負を持って活動しております。今部長からお話がありましたとおり、いろんな補助金も市から町内会にいただいております。日頃の活動をさらに充実させて、私たちから言えば住民の皆さんの満足度が少しでも上がるように努力していきたいと常々活動しております。

【安藤正康委員】

内容というよりも、この統計について伺いたいことがあります。2ページに「住みよい」とした人の割合が2.6%増加と書いてあるんですけども、統計上の優位さを見ないといけないと思うんです。この統計をとった結果について、統計学の専門家の助言を得ているかどうかはいかがでしょうか。もし得ていなければ、そういう専門家の方のご意見を聞いてアンケートの結果をどのように解釈するか、施策に反映させるかを考えるといいんじゃないかということを提案したいと思います。

【健幸=SDGs課長】

統計学の専門家からのご意見はいただいておりますので、今後の課題として検討させていただきます。よろしくお願いいたします。

【加藤研一会長】

他にございますか。

【佐野真紀委員】

先ほどの重要度と満足度のマトリクスですが、そこで社会保障とひとり親家庭福祉がAゾーンに入っていて、そこが課題であるよと市民の方も認識していると思っで見させていただきました。報告書を見ますと、社会保障というのが生活困窮者の自立支援であるとか、メタボリックシンドロームの受診とかになっていきますけれど、この生活困窮者の自立支援ということの必要性がどういう意味で語られているのか、そこは中身を聞かないと分からないところだなと思って見ていました。つまり、生活保護などを受けている人が早くそれをやめることができるように自立を促進するという意味なのか、それとも生活困窮者の生活を保障するんだという意味なのか、どっちなのかが気になる場所でした。こういった結果を各課で精査して解釈をされていると思いますが、福祉部はどのように理解されているのかを伺いたいと思います。

【福祉部長】

生活困窮者の自立支援の関係ですが、制度が始まってあまり長くないこともありまして、福祉部としてもこのあたりをどのように対応していくかというところの熟度がまだ

達していないというのが正直なところでございます。こういったご意見をいただいたことも参考にして、徐々に仕上げていきたいという状況でございますので、どういう評価指数が正しいのか、この指標が正しいのかということも含めて今後検討して効果的な検証ができるようにしたいと考えております。

【加藤研一会長】

他によろしいですか。

【近藤裕己委員】

アンケート調査と直接関係ないかもしれませんが、標本が3,000で回答が57.3%で、これはちょっと低いなど。他の市町村も無作為抽出という方法をとっていると思うんですが、市町村によって変えることができないのかなというのが一つ疑問に思ったところです。

あとは、ICTの活用を積極的に進めていくうえでも、小学校でも中学校でもタブレット端末を配って、すでにあるという状況なので、例えば極端な話ですが、全世帯に配ってアンケートもこれを使えばすぐできるというようにしたり、先ほど高齢者に力を入れてという話もあったので、タブレットを活用することによっていろんなところの情報が共有できるし、そういう仕組み仕組みができるかなと思うので、そういうものの活用もぜひ考えていただけるといいかなと思います。介護のことで言うと、すでにICT活用で見守りというところで、1日1回画面に映してもらって見守りして確認するというを導入したりしているものですから、どんどんICTを活用することによって、いろんなところで予算も少なくて済むということがたくさん出てくると思うので、将来的なことを考えると、投資として一番効果が高いところになってきます。ここをぜひ考えていただければと思いました。

【行革・政策監】

私ども現在、行政手続きであったり、行政職員の業務効率の向上というところのデジタル化に今取り組んでいるところでございます。行政のアクセスに関して、デジタル技術を活用すれば、すなわち近藤委員のおっしゃっていたICTを活用すれば、はるかに住民サービスの質的向上を図ることができますので、現在まだアナログな手続きで終わっている業務であったり、アナログでの情報伝達で終わっているサービス多々ございますので、ちょうど今年市で行っている全ての事務事業の棚卸しを今やっております。これをやって、デジタル化につながる取組みであったり、ICTを活用することでさらに質が高まるようなものが何があるのかをしっかりと洗い出しをして、一つ一つ住民サービスの向上につなげていきたい、福祉分野におきましてもつなげていきたいと考えておりますので、今後ともご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

【加藤研一会長】

他にございますか。

では、アンケート概要版2ページの「住みにくい」と回答した人の理由として、交通

の便が悪いというものがあります。市ではあんくるバスを運用しているわけですが、それでも交通の便が悪いという高い数字が出ています。他市の動きですとか、今後どうしていくかの検討をしているようなことがございましたら、情報としてでも結構ですので、お知らせいただければと思います。

【都市整備部長】

今、会長からお話がありましたが、最近チョイソコという小型の車を使って輸送する仕組みを検討されている自治体を見かけます。このチョイソコというのは利用者がユーザー登録をして、複数の利用者が目的地、時間を伝えて最適ルートを選択して最寄りのバス停で乗り降りする予約型の乗り合いバスという仕組みでございます。このチョイソコにつきましては、先進的に導入している豊明市、豊田市、岡崎市。こういった自治体に取り組んでおられますので、その利用状況等の情報収集を行っているところでございます。

人の移動は、その目的や地域の環境によって異なりますので、各地域のニーズに合った交通の提供が必要と考えます。そのため、行政、地域、交通事業者、この三位一体で取り組むことによりまして、持続可能な交通体系を実現できると考えておりますので、チョイソコ、そしてチョイソコのようなデマンド交通など様々な交通形態を含めて今後とも検討してまいります。

【加藤研一会長】

高齢化社会で、免許返納して買い物も不便だし、外出も不便だということで福祉の面でも大変ニーズが高まっております。今のチョイソコ、全国で20か所ぐらいの運用あるいは実証実験などがされておりますが、そういったきめ細かいサービスについても検討を進めていただくようお願いしたいと思います。

【福祉部次長】

今先進的な事例ということで、一つご紹介させていただきたいと思います。福祉の部門で言いますと、例えば具体的な取組の一つが北中学校区、特に別所団地の地区でございましょうか。令和2年度9月から社会福祉法人の観寿々会様が介護の送迎に使うバスを空いている時に町内の方々がお買物などに使っていただけるような取組を始めております。チョイソコというのも一つの仕組みだと思いますが、そういった事業者様がそういったことにご参加いただけるような機運が高まってまいりますと非常にいいのではないかと考えておりますので、ご紹介をさせていただきます。

【加藤研一会長】

ありがとうございます。

はい、どうぞお願いします。

【戸田こず恵委員】

アンケートとは関係ないことで提案なんですけど、先ほど神谷市長が言われたお茶の件なんですけど、お茶をどの会議に行っても出していただいて、用意していただくんです

が、今は水筒やマイボトルを皆さん持って歩いていると思いますので、70周年に向けてではなくて、すぐにやめていただいて経費の削減やエコに対する思いを強くするように安城市で積極的にやっていただけると嬉しいなと思います。

【加藤研一会長】

他によろしいでしょうか。

では特にご意見もないようでございますので、事務局へ。アンケート調査結果という市民の声を市として真摯に受け止め、特に重要度は高いが、満足度が低いという政策については、特に重点的に施策を進めていただくようお願いします。以上で、報告事項(2)市民アンケート調査の結果について、を終了いたします。

本日の議題は以上でございます。事務局にマイクをお返しします。

【事務局】

委員の皆様には貴重なご意見をいただきました。どうもありがとうございます。

それでは事務局から連絡事項がございます。次回の総合計画審議会でございますが、令和4年度の6月ごろを予定しております。議題につきましては、令和3年度の総合計画および総合戦略などの進捗状況の報告を予定しております。以上でございます。